



本紙に掲載されている本会オンライン事業の画像は、本会理事長が撮影を許可した広報委員会によるものです。本会オンライン事業に関するコンテンツの複製、その利用等は、目的の如何および個人利用を問わず、本会理事長が許可した場合を除き一切禁止しております。



# News Letter

No.57

一般社団法人日本老年歯科医学会 会報

2024年9月30日発行

## 【本号のトピックス】

第36回学術大会のご案内／各委員会からのお知らせ／名誉会員のご紹介／  
監事ご交代に際してのご挨拶／支部だより(愛知支部)／  
摂食機能療法専門歯科医師活動レポート／学会からのお知らせ

## 第36回学術大会のご案内 #JSG25

口腔機能の維持・向上で老年学に貢献する—輝く100年を口とともに生きる—

大会長 片倉 朗  
(東京歯科大学口腔病態外科学講座教授)

第36回学術大会は、口腔機能の維持・向上を通して人生100年時代の健康に貢献すべく、「口腔機能の維持・向上で老年学に貢献する」を大会テーマとさせていただきます。本学術大会は、第34回日本老年学会総会として7学会の同時開催となります。学会期間中は、他学会の先生方の講演、発表を聴講することが可能であり、他職種の先生方とディスカッションできるたいへん貴重な機会となります。来年はぜひ千葉・幕張の地にお集まりいただきますよう、皆様のご参加を心よりお待ち申し上げます。

テーマ：口腔機能の維持・向上で老年学に貢献する  
—輝く100年を口とともに生きる—

会期：2025年6月27日(金)～29日(日)

会場：＜幕張メッセ国際会議場＞

〒261-8550 千葉市美浜区中瀬2-1

＜東京ベイ幕張ホール＞

〒261-0021 千葉市美浜区ひび野2-3

演題募集期間：2024年12月2日(月)  
～2025年1月10日(金)(予定)



## 第34回日本老年学会総会のご案内

今回は2年ごとに開催される日本老年学会総会も同時開催されます。本会学術大会への参加登録で、日本老年学会総会および共催学会の参加も可能です。

第34回日本老年学会総会  
HP：<https://jfgs34.jp/>



## 「高齢期における人生の最終段階の歯科医療に関する行動指針」のご案内

在宅歯科医療委員会委員長（2022～2023 年度） 古屋純一  
（昭和大学歯学部口腔健康管理学講座口腔機能管理学部門教授）

在宅歯科医療委員会では、2024 年 6 月に高齢期における人生の最終段階の歯科医療に関する会員向けの行動指針を作成し、日本老年歯科医学会より発出いたしました。

この行動指針は、本会会員に対するメッセージであり、人生の最終段階の歯科医療の在り方を示すものです。厚生労働省から発表された人生の最終段階における医療・ケアの決定プロセスに関するガイドラインに基づいており、高齢期における人生の最終段階において、本会会員がどのように対応すべきかを具体的に記載しています。在宅や施設への訪問診療だけでなく、病院歯科においても有用な内容となっております。ぜひお読みください（右記 QR コードからアクセスいただけます）。



[https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsg/39/supplement/39\\_1/\\_article/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/article/jsg/39/supplement/39_1/_article/-char/ja)

## 「生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関するケアガイドライン」について

ガイドライン委員会委員長（2022～2023 年度） 戸原 玄  
（東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科医歯学専攻  
老化制御学講座摂食嚥下リハビリテーション学分野教授）

このガイドラインは、愛知医科大学栄養治療支援センター前田圭介教授が班長の厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）にて作成されました。タイトルのとおりリハビリ・栄養・口腔の 3 つのグループに分かれて作成が進められ、本学会からは東京医科歯科大学摂食嚥下リハビリ学分野の吉見佳那子先生をグループ長として、前ガイドライン委員会が全面的に作成にかかわり、その他多くの学会員にもご協力いただきました。高齢社会への対応の重要な要素としての、リハビリ・栄養・口腔の三位一体のアプローチをご紹介します。また本学会から X にて紹介したところ、70 件程度の「いいね」がつかしました。ぜひお読みいただけましたら幸いです。

<https://www.igaku-shoin.co.jp/book/detail/112989>

出版社：医学書院

定 価：2,860 円

（本体2,600円+税）

2024 年 5 月発行、B5 判、

216 頁



編集「生活期におけるリハビリテーション・栄養・口腔管理の協働に関する  
ケアガイドラインおよびマニュアルの整備に関する研究」班  
厚生労働科学研究費補助金（長寿科学政策研究事業）

生活期における  
リハビリテーション・栄養・口腔管理  
の協働に関する  
ケアガイドライン



医学書院



## 名誉会員のご紹介

新しく本学会名誉会員になられた先生方よりご挨拶をいただきましたので、以下にご紹介いたします。

**市川哲雄先生**  
(徳島大学名誉教授)

このたび、徳島大学教授の定年退職に際し、名誉会員に推挙いただき、誠にありがとうございます。第27回学術大会大会長、およびガイドライン委員会委員長として認知症の診療ガイドラインの作成にかかわらせていただきました。現在は「高齢者福祉」の講義を担当しておりますが、高齢者の実践者として、老年歯科医学に貢献できればと考えております。



**佐藤裕二先生**  
(昭和大学名誉教授、さとう歯科顧問)

名誉会員の拝命、光栄です。1994年に入会し、2002年から代議員、2003年から常任理事を拝命し、その間、理事長、学術大会大会長も務めさせていただきました。2023年に定年退職後は、地域医療で口腔機能低下症管理の実践や、全身疾患をおもちの患者さんの医管・総医を積極的に行っております。陰ながら学会のますますの発展を祈念しております。



**植田耕一郎先生**  
(日本大学歯学部特任教授)

1990年本学会が大阪で産声を上げたときに「リハビリテーション専門病院における歯科需要」と題して発表いたしました。このたび名誉会員の称号を受け、34年前は夢にも思わなかったことであり、誠に光栄です。21世紀超高齢社会の歯科を担う精鋭が集う学会ですので、未来に心配はございません。ありがとうございました。



**皆木省吾先生**  
(岡山大学名誉教授)

このたび、歴史ある日本老年歯科医学会の栄誉ある名誉会員を拝命いたしました。ますますの高齢化が進む日本において重要な役割を担う学会であり、理事長の下、役員皆様、会員皆様がますますのご研鑽を積まれて、より豊かで幸せな超高齢社会を達成してくださることを心から祈念申し上げます。



## 長年本学会の監事をお務めいただきました 森戸先生, 山根先生, お疲れ様でした！

2 期 8 年間にわたり本学会の監事をお務めいただきました両先生より、本学会にまつわるエピソード、監事ご交代に際してのご挨拶をいただきました。

森戸光彦先生  
(鶴見大学名誉教授)

### 「本当に嬉しい仲間たち」

台風が近づくたびに思い出すのが、2000 年 9 月の第 11 回学術大会（パシフィコ横浜）です。サミットの開催年と重なって珍しく 9 月開催になり、そこに台風が直撃したのです。大会長として決して忘れてはいけないのが、北海道、大阪、九州などから予定を早めてまで集まってくれた学会仲間たちです。そのときの彼らを絶対に裏切ってはいけないと誓ったのでした。



山根源之先生  
(東京歯科大学名誉教授)

### 「8年間務めた監事を終えて」

2016 年 6 月、2 期目の櫻井 薫理事長の下、工藤逸郎・渡邊郁馬両先生の後を受けて監事に就任し、2 期 8 年間務めました。その間、本学会は老年歯科関係の各分野に活動の幅を拡げ発展し、会員数も 4,000 名を超えました。特に関係組織との連携強化は特筆です。この間、監事として事業が目的に沿って適正に執行されるように見守りました。



## | 支 | 部 | だ | よ | り |

### 愛知支部セミナー 「第 28 回東海歯科医療管理学会総会・ 学術大会」開催報告

愛知支部 富田健嗣

2024 年 8 月 25 日、愛知県歯科医師会館にて「どうなる、どうする歯科訪問診療」をメインテーマとして標記大会を東海歯科医療管理学会と共催し、歯科医師、歯科衛生士等 47 名が参加しました。古屋純一先生(昭和大学歯学部)による特別講演「義歯と嚥下でつなげる高齢期の歯科訪問診療」のほか、シンポジウム「歯科訪問診療の推進に向けて」では、吉田光由先生(藤田医科大学医学部)、森 幹太先生(愛知県歯科医師会)、歯科衛生士の亀井智子様(富田歯科)にご講演いただき、活発なディスカッションを行いました。



古屋先生への感謝状贈呈



シンポジウムの様子

## 摂食機能療法専門歯科医師活動レポート

摂食機能療法専門歯科医師として活躍されている先生方を紹介するコーナーです。

### 村田尚道先生

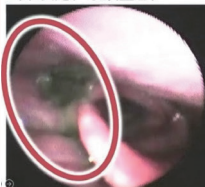
(広島県・医療法人社団湧泉会 ひまわり歯科)

2016年に摂食機能療法専門歯科医師の資格を取得し、大学病院での診察、研修を行ってきました。2020年から歯科医院に勤務し、在宅での摂食機能療法に携わるようになりました。これまでの外来・病棟中心から在宅医療に変わり、大きく感じたのが情報共有と連携の難しさです。岡山大学病院では、NSTなど、チーム活動による連携や電子カルテによる情報共有が容易でした。在宅では、ICTを活用した連携が広がっていますが、私の勤務先では書面での情報共有が主体で、連携できる職種も限られます。また、極端に言うと、患者の「食べること」に興味があるのは、医療者側より本人・家族ではないでしょうか。病院から自宅に戻った後、その思いをどのように共有し、治療へとつなげるか、さまざまな症例を経験して、難しさを実感しています。現在、写真のように、ひまわり歯科のオンラインサロンで、参加者の皆様と症例検討しています。これからも、臨床・研修を通して、患者の「食べること」を支援できるように活動し続けたいと思います。

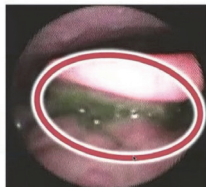


### VE画像・所見

- ◆とろみ（薄い）
- ◆嚥下後残留あり（梨状窩、喉頭蓋谷）



- ◆水分
- ◆嚥下後 喉頭蓋谷に残留あり



オンラインサロンの様子

### 元橋靖友先生

(社会医療法人財団大和会 武蔵村山病院)

私は大学で高齢者歯科の経験を積んだ後に、当時開設したばかりの武蔵村山病院に勤務して19年になります。開設当初からの歯科衛生士と二人三脚で嚥下リハの構築に励み、現在では他診療科からの認知度は高く多数のご依頼をいただいています。当院は300床の地域の市民病院として機能しており回復期リハは52床です。歯科はリハと近接した病棟内に位置しています。常にリハ医やセラピスト等と連携を図り嚥下リハを行うことができる絶好の位置です。一般病棟の嚥下障害や糖尿病パス入院、周術期口腔機能管理など嚥下を契機にさまざまな医科と関連のある歯科的な問題にも対応しています。回復期リハでは全例に対して言語聴覚士と協力して口腔と嚥下の機能評価をしています。咀嚼や嚥下機能の改善を通じて入院時よりも安全で健康的な食事ができるようサポートしています。今年度から嚥下認定看護師もチームに加わりました。地域医療に貢献できますますの発展を目指しています。



チームの仲間たちと



病院内で嚥下チーム活動の表彰を受けました！

## 歯科衛生士研究支援制度について

### <支援制度の利用について>

1. 日本老年歯科医学会歯科衛生士会員を対象とする制度です。ただし、大学院に在籍する歯科衛生士は対象から除きます。
2. 研究支援制度への申し込みに際しては、事前に歯科衛生士関連委員会が作成した動画教材のうち「基礎編Ⅰ」の視聴が必須となります。



※受講後に、内容に関する確認テストがあります。詳細は学会ホームページもしくは右記をご参照ください。

<https://www.gerodontology.jp/info/002395.shtml>

## 「老年歯科医学」J-stage Supplement号について

「老年歯科医学」J-stage Supplement 号におきまして、本ニュースレター2ページ目で紹介しました「高齢期における人生の最終段階の歯科医療に関する行動指針」以外にも、以下の各委員会からの記事を掲載いたしました。それぞれ有用な内容となっておりますため、ぜひお読みいただけますと幸いです。

### <教育委員会>

「診療参加型臨床実習マニュアル『口腔機能低下症の検査』」

「わが国の歯科大学・大学歯学部における老年歯科医学教育の実態（2022年度）」

### <地域包括ケア委員会>

「多職種連携のための用語集（介護編）」

J-stage Supplement 号へは、学会ホームページもしくは下記よりアクセスいただけます。



[https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsg/39/supplement/\\_contents/-char/ja](https://www.jstage.jst.go.jp/browse/jsg/39/supplement/_contents/-char/ja)



### 編集後記

ニュースレター第57号をお届けします。今回の号から河相前広報委員長から引き継ぎ、新委員会でお届けすることになりました。不慣れではございますが何卒よろしくお願いいたします。新メンバーの皆様へさまざまな情報をお届けできるよう取り組みたいと考えております。また、会員の皆様方には原稿依頼など不意なお願いが舞い込むこともあるかもしれませんが、その折には何卒ご協力のほどお願い申し上げます。（伊藤誠康）

発行人 平野浩彦

編集 (一社)日本老年歯科医学会広報委員会

事務局 〒170-0003 東京都豊島区駒込1-43-9  
駒込TSビル (一財)口腔保健協会内

電話 03-3947-8891 FAX 03-3947-8341

E-mail [jsg@kokuhoken.or.jp](mailto:jsg@kokuhoken.or.jp)